物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　書道展を よんで、賞状を見つめていたときの千夏の心情を1つえらびましょう。

千夏の 書いた「希望」が、市の 書道展で 金賞に 選ばれた。家族は 大喜びだったが、千夏は 賞状を 見つめた まま、だまって いた。出品したのは、先生に すすめられた 一枚。千夏が 自分で いちばん 気に入って いたのは、引き出しに しまった ままの、もう 一枚の ほうだった。

1. すすめてくれた先生のおかげだと思い、感謝の気持ちでいっぱいだ。
2. 自分がいちばん気に入った作品ではないので、すなおに喜べない。
3. 金賞をとったことで、次の書道展が今から心配になっている。
4. 思いがけない金賞に胸がいっぱいで、言葉にならない。

2　祖父の時計を よんで、拓也がきっぱり答えたのはなぜですか。1つえらびましょう。

亡くなった 祖父の 古い 時計を、修理に 出すか まよっていた 拓也は、店の 人から「まだ 動きますよ」と 言われた。とたんに、時計を のぞきこんで いた 祖父の 横顔が 思い出され、拓也は「なおして ください」と きっぱり 答えた。

1. まだ動くと聞いて、修理代が安くすむと思ったから。
2. まだ動くと聞いて、祖父にもらった日のことを思い出したから。
3. まだ動くと聞いて、祖父の口ぐせを思い出したから。
4. まだ動くと聞いて、時計をのぞく祖父の横顔を思い出したから。

3　班行動を よんで、帰りのバスでの翔の心情を1つえらびましょう。

修学旅行の 班行動で、翔は 地図係だった。ところが 道を まちがえ、予定して いた お寺には 行けなかった。かわりに 入った 路地の 小さな 店で、班の みんなは せんべいを 焼かせて もらい、夢中に なった。帰りの バスで、翔は 窓に 額を つけた まま、こっそり にやりと した。

1. 道をまちがえたが、かえって楽しい思い出になり喜んでいる。
2. 次の班行動では、地図係をきちんとやりとげようと決めている。
3. 道をまちがえたことを、先生にしかられないかと気にしている。
4. お寺に行けなかったことを、班のみんなにすまなく思っている。

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　姉のけっこん式を よんで、席にもどったときの優の心情を1つえらびましょう。

姉の けっこん式で、優は 花束を わたす 役だった。会場の だれもが 目を うるませる 中、優は 花束を わたし終えると、席に もどり、冷めた スープを 一気に 飲みほした。朝から きんちょうで、何も のどを 通らなかったのだ。

1 姉が家を出ていくさびしさがこみ上げ、なみだをこらえている。

2 会場のみんなと同じように、感動で胸がいっぱいになっている。

3 大役を終えて気がゆるみ、急におなかがすいてきた。

4 花束のわたし方がうまくいったか、まだ気になっている。

2　引っこす前の日を よんで、小指を差し出した莉子の思いを1つえらびましょう。

引っこす 前の 日、幼なじみの 二人は いつもの 海辺に 立った。かける 言葉が 見つからず、ただ 波の 音を 聞いていた。やがて 陽菜が「手紙、絶対 書くから」と 言うと、莉子は だまって 小指を 差し出した。

1 はなれても、また会いに来ると約束したい思い。

2 はなれても、手紙の約束でつながっていたいという思い。

3 はなれても、いつかまた同じ海辺に来ると約束したい思い。

4 はなれても、今日のことはわすれないとちかう思い。

3　子ども会を よんで、この場面での慎の変化を1つえらびましょう。

子ども会で、慎は 一年生に こま回しを 教える ことに なった。こまなら だれにも 負けない 自信が ある。ところが「どう やって 投げるの?」と 聞かれると、言葉が 出て こない。慎は 一年生を 待たせた まま、何度も 自分で 投げては、手首の 動きを じっと 見つめた。

1 得意なつもりだったが、教えようとして自分の投げ方を見直し始めた。

2 得意なつもりだったが、一年生のほうが上手だと気づいてあせり始めた。

3 めんどうに思っていたが、一年生に感心されて教えるのが楽しくなった。

4 めんどうに思っていたが、教えるうちに一年生がかわいく思えてきた。

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　寄せ書きを よんで、『かたをふるわせた』ときの先生の様子を1つえらびましょう。

退職する 先生が、クラスの 寄せ書きを 受け取った。一人一人の 言葉を ゆっくり 目で 追い、ある ところで 指を 止めると、口を 結んで かたを ふるわせた。そこには、いたずら好きの 健二の 字で「先生の 字は 読めなかったけど、話は ずっと 聞いてた」と あった。やがて 先生は ふき出し、「健二め、一本 とられたな」と 笑いころげた。

1. 字が読めないと書かれて、はずかしさをこらえていた。
2. ふざけた一行に、少し腹が立つのをこらえていた。
3. こみ上げてくるなみだを、生徒に見せまいとこらえていた。
4. こみ上げてくるおかしさを、なんとかこらえていた。

2　二つのペンケースを よんで、美月が古いほうを使い続けるのはなぜですか。1つえらびましょう。

美月は お年玉で 新しい ペンケースを 買った。ところが 次の 朝、それを かばんの 外ポケットに 入れて みると、ファスナーが しまらない。美月は 小さく ため息を つき、新しい ほうを 机の 引き出しに しまうと、ファスナーの こわれかけた 古い ペンケースを、また ポケットに すべりこませた。

1. 新しいほうは、使うのがもったいなく感じたから。
2. 古いほうが、仲のよい友だちとおそろいだから。
3. 新しいほうは、いつも入れている場所に入らなかったから。
4. 古いほうに、小さいころからの思い出がつまっているから。

3　お弁当を よんで、のりの文字にこめた母の思いを1つえらびましょう。

昨日、玲は 夜おそくまで マンガを 読んで いた。今日の 昼、学校で 母の 作った 弁当の ふたを 開けると、ごはんの 上に のりで「がんばれ」では なく、「ねるな」と 書いて あった。午後は 苦手な 歴史の 授業だ。玲は あわてて ふたで 文字を かくし、あたりを 見回した。

1. 夜ふかしした玲が、午後にいねむりしないよう注意したい。
2. 夜おそくまで勉強していた玲を、ゆっくり休ませてあげたい。
3. 夜ふかしした玲でも、元気に一日を乗り切れるよう、はげましたい。
4. 夜ふかしした玲に、ごはんをしっかり食べて力をつけてほしい。